

通信計測事業

5Gの最先端技術で 通信ネットワークの高度化を実現し、 社会基盤の拡充に貢献

～5Gが目指す新しい社会に向けた取り組みを加速～

取締役 常務執行役員
通信計測カンパニープレジデント
島 岳史



SWOT分析

<ul style="list-style-type: none">有線・無線通信を網羅する計測技術と多種多様なソリューショングローバルな開発・販売・サポートネットワーク業界をリードするお客さまやパートナーとの協業領域の広さ <p>強み</p> <p>S</p>	<ul style="list-style-type: none">5G/IoT利活用市場の深耕が途上通信市場への依存度の高さ <p>弱み</p> <p>W</p>
<ul style="list-style-type: none">5Gのサービス拡大にともなう開発・製造・建設保守向け設備需要の増加会議、娯楽、購買、各種制御のDX化によるネットワーク高速化・大容量化高速化・低遅延を活かした非通信産業分野での5G活用の促進(ローカル5G、IoT) <p>機会</p> <p>O</p>	<ul style="list-style-type: none">新型コロナウイルスの変異株による活動制限と5Gサービスの展開の遅れ貿易と地政を巡る緊張の増大と大国間の対立による事業活動の制限特定顧客の盛衰 <p>脅威</p> <p>T</p>

事業領域

アンリツは創業以来、情報通信の未来を切り開くイノベーションを起こし、オリジナルでハイレベルな製品を社会に送り出すことで、通信技術の進化に貢献してきました。通信計測事業は通信ネットワークインフラの中核となる通信設備・機器の品質保証に不可欠な測定器群およびシステムを世界中のお客さまに提供しています。

- スマートフォンに代表されるモバイル通信市場で、チップセット開発、デバイス開発、国際規格適合試験、製造検査に至る全フェーズ用のテストソリューションを提供。
- IoT化する自動車、家電および産業用設備に搭載される通信モジュールのコネクティビティ品質の評価や保証に必要な

な測定器およびシステムを開発用、製造検査用に提供。

- データセンターからインターネットを介して高精細な映像や画像を高速で提供するために使用されるネットワークデバイスの性能評価および製造検査用の測定器を提供。
- モバイルネットワークを構成する基地局をはじめとする各種通信装置・機器の製造や建設保守用の測定器を有線・無線の領域にわたって幅広く提供。
- 通信事業者のネットワーク稼働状況を可視化し、障害分析や容量拡充といったネットワークオペレーションの向上に貢献するモニタリングソリューションを提供。

コロナ禍においてインターネットの重要性が改めて認識され、「新しい生活様式」を支えるインフラとしてさらなる発展が求められています。5Gの実用化で無線領域の高速化と大容量化が実現できる今、居住地に関係なく誰もが高度なサービスを受けられる環境の整備が可能となりました。

アンリツの通信計測事業は、高度な通信技術の確立や普及に不可欠な測定システムをグローバルな市場に提供しています。お客さまのパートナーとして、5Gをはじめとする情報通信の発展に寄与するべく、通信技術の新しい応用・活用領域でのテストソリューションを創出し、通信社会の課題解決に向けた取り組みを加速していきます。

市場環境と事業機会

2019年に韓国と米国で始まった5Gサービスは、規模の違いはあるものの、今や世界68カ国で143の商用5G網が提供されています。加入者数も中国を筆頭に世界で2億2,000～3,000万人まで増加しました(2020年12月末“5G America”, “Ericsson Mobility Report”)。通信サービスの重要性は人類

が直面した新型コロナウイルスという世界的な困難の中でより高まりました。従来は対面型が前提であった多くの販売、サービスの提供が通信を利用したものに変わり、5Gはその新しい生活形態を支えるインフラ基盤としての発展が求められています。5Gが使われる分野は広がりを見せており、既にオンライン化されているサービス以外にロボットや乗り物の遠隔操作、教育、医療へと及んでいくと考えられます。このようなリモート型の社会活動(非対面経済)が発展していくにつれ、AIやVRを使った高精細な映像・画像情報を高速通信で遅延なく送る、安全確保のための品質保証の仕組みを構築するといった、測定に関わるニーズが高まると予想しています。

技術の進化という面では、すでに商用化されている無線の5G、有線の400Gbpsイーサネット、各種小電力無線の先に位

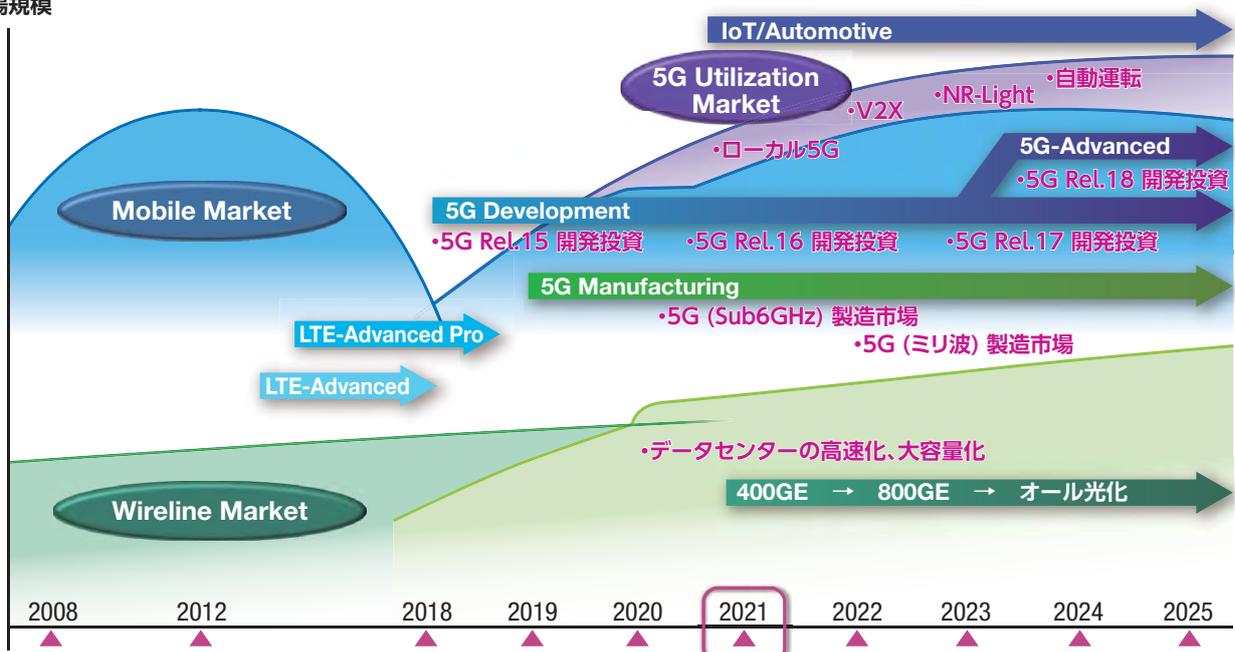
5Gサービスのロードマップ

*出所：一般公開情報を参考に当社作成



通信計測事業：計測市場トレンドと事業機会

市場規模



通信計測事業

置付けられる5G-Advanced、6G、800Gbps等の研究が既に始まっています。アンリツはこれらの技術開発にさらなる磨きをかけるだけでなく、ローカル5G、自動運転、医療等の各種遠隔サービスといったお客さまのユースケースの広がり・多様化に伴って生じる課題解決のためのノウハウの蓄積にも取り組み、ソリューションの開発・提案を積極的に行っていきます。

成長戦略

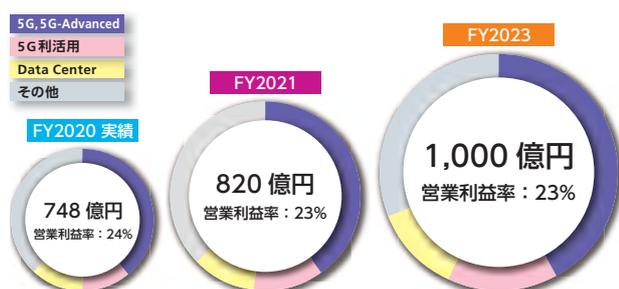
2020年度の成果

GLP2020の最終年度である2020年度は売上高748億円、営業利益率23.6%となり、当初の目標を達成することができましたが、年度の売上高は期初計画であった770億円には届かず、新型コロナウイルスによる市況の影響を受けてしまいました。しかしながら、そのような状況下でも先端技術開発を進める世界中のお客さまとの協業を継続・発展させることができたことは2021年度以降の取り組みを加速させる上で大きな成果でした。当社は2020年度初頭には在宅でも開発を進められる環境の構築を完了し、一部制限はありましたが、入社時とほぼ同等の日程で開発計画を進めることができました。その結果として、5G基地局シミュレータ(MT8000)用Fading機能、C-V2Xソリューション、400Gbpsフィールドテスター(MT1040A)、世界で唯一となる新規規格Wi-Fi 6Eのプロトコル対応1 BOX測定ソリューション(MT8862A)等の新商品をリリースしました。

GLP2023基本方針

GLP2020の完遂とともに2021年4月に次の中期経営計画であるGLP2023を策定しました。売上高1,000億円、営業利益率23%というターゲットを設定し、大きく事業を成長させる予定です。GLP2023では、「5Gで構築される通信社会を

通信計測事業：GLP2023売上高・営業利益計画



支えるリーディングカンパニーになる」というビジョンを掲げ、2023年～24年の5Gスマホ関連事業のピークに向けた取り組みを加速させるとともに、5Gがさらに発展するもしくは5Gから派生する分野での事業領域の拡大を目指します。(1) 5G活用分野とネットワークインフラ市場での事業比率を上げる、(2) 「測る」ツール提供型ソリューションから「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を進める、(3) 成長分野(5G-Advanced、自動運転、O-RAN/IOWN)への投資を拡大する、という3つの基本方針のもと、通信技術を利用して事業を展開する幅広いお客さまに貢献できるソリューションづくりに邁進していきます。業界各社との協業はもとより、「共創」に向けた取り組みに重点を置き、3年間の活動を進めていきます。

3つの基本方針の中では、とりわけ「測って解決する」価値提供型ソリューションへの変革を重視しており、チャレンジングな目標と認識しています。5Gの活用の裾野が広がる中で、通信技術に長けたチップセット、スマホメーカーではないお客さまが増えてきています。このようなお客さまは通信を使ってどのような事業を展開するかということが課題であり、通信技術そのものを取り組み課題としているわけではありません。当社は測定で得られる結果をどのように使って、これらのお客さまの事業に貢献できるかを考え、新しい価値へと変換していかなければなりません。この価値を生み出すための取り組みをIoT、自動車、ローカル5Gの事業者といった新領域のお客さまと協業・共創といった形で進めています。その過程で得られる新しいニーズや知見を当社の強みである高度で正確な測定技術に加え、より高度な社会基盤が確立できるような貢献をしていきます。

人財の採用・育成について

当社はオリジナル&ハイレベルという不変の理念を持っており、ソリューション開発から製造・販売に至るまで、その理念に見合った優れた人財を幅広くかつグローバルに採用し、育成することに努めています。開発拠点は米国・英国のほか、アジア地域でもフィリピンほか複数カ国に展開しています。最先端開発に関わるエンジニアについては、開発の本国である日本での研修を入念に行った上でそれぞれの拠点に配置しており、本社の方針に基づいた一貫通貫の考えのもと、各国の文化や環境などの特性を加味して、開発を分担する体制となっています。製造と販売についてもグローバルな研修や会議、相互の人事交流を通じて人財の育成を行うと同時にグローバル企

業としての体制強化を図っています。開発やマーケティングに従事する女性社員も増えており、全社員のキャリアアップの仕組みをさらに発展させていきます。

知的資本の蓄積、外部団体への参加について

当社は開発で得た技術の特許獲得だけでなく、各種の外部団体へも加盟することで、新技術の獲得にも注力しています。現在は、モバイルの通信規格を決める3GPP (Third Generation Partnership Project) に所属するほか、代表的なものとして以下の団体に加盟しています(標準化活動として当社ホームページで全加盟団体を紹介しています)。

- 1.次世代モバイル通信のあり方を協議するNGMN Alliance (Next Generation Mobile Networks Alliance)
- 2.Wi-FiやEthernetなどの規格を策定するIEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers publications) の下部組織(Wi-FiやEthernetの標準化活動に参画)
- 3.5G通信のネットワークのインテリジェント化と機器のオープンインタフェース仕様を策定する O-RAN Alliance (Open Radio Access Network Alliance)
- 4.オール光ネットワーク、エッジおよび無線分散コンピューティングから構成される新しい通信基盤を検討するIOWN (Innovative Optical and Wireless Network) Global Forum

通信計測カンパニーが取り組むSDGs

当社のオリジナルでハイレベルな製品づくりによる付加価値の提供はSDGsの目標9(産業と技術革新の基盤を作ろう)に合致しています。また、IoTによる利活用を含めた5Gでの事業拡大を通じて目標11(住み続けられるまちづくりを)への貢献度を上げていきたいと考えます。近年、自然災害、疫病、人類の高齢化など解決すべき社会課題が増加しています。その中でSNSや写真共有・動画配信など、インターネットを通じたコミュニケーションは、これらの課題を解決するツールとして認識されてきています。「つながる」ことで人々の安全と日々の暮らしを支えている通信ネットワークは、5Gで高速・大容量、超低遅延、多数同時接続が可能となります。5Gは医療、農業、自動車、防災などの産業分野で利活用され、情報格差、交通事故防止、労働者不足といった問題を解決する手段として期待されています。当社の通信計測技術は通信の高度化と高品質化を支えることで、より良く便利な社会づくりに貢献しています。引き続き5Gのみならず、保有する技術を最大限活用し、アンリツグループで取り組む「社会のサステナビリティ実現」のための活動の一翼を担っていきます。

